
人間と人形

ゆう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人間と人形

【NZコード】

N0027F

【作者名】

ゆづ

【あらすじ】

夏の午後。一本の樹の上でティーダラの言葉が、サソリの胸に響いた。

(前書き)

わずかにB-要素が含まれますので、苦手な方はお控りください。

夏の陽差しが、木の葉の隙間から小さなオーロラみたいに射す午後。その中は埃ひとつなく透き通っている。見事だ。蝉はみんみん鳴き続ける。夏みかん色の太陽の香りが、鼻腔の奥深くをふんわりと包み込んだ。そしてほんのりと風にのって自分の淡い汗の香りがした。こうして夏の樹の上つてのも、なかなか心地良いもんだ。

こんな爽やかな午後なのに、オイラの心中は、炎天下のアスファルトのように熱を持つてた。あの男…うちはイタチのこと思い出していたからだ。腹の虫が收まらなくなつたオイラは、旦那にちよつかいを出すことにした。

「…なあ旦那」

「何だ」

「今日こそ決着つけようぜ、一体どひきの藝術が美しいのか…うん。そもそも藝術つてのはな、」

「興味ねエよ。いい加減、俺の事を認めろ」

「…！」

「こいつ…。

オイラの藝術論を。

「おい、ティダラ。いつまでこいつしてる？早く行くぞ」

「うん？！」オイラは精一杯、旦那の眼を睨む。その瞳の奥は、生氣の欠片も無くてオイラは少し怯えた。其処に温かみがないのだ。温度が無い。余りに冷たかつた。ぐらぐらに熱くなつたアスファルトが、少しづつ温度を下げていく。オイラは直ぐにカツとなる。そうして今まで何度も爆発してきた。

「オイラはアンタを認めねーぞ、うん。アンタは何も分かつてねえ。芸術は爆発だ。一瞬で儂いもんなんだよ、うん。散るんだよ、いつか。永遠なんてもんは無いね…つん」

オイラは興奮氣味にベラベラと話した。旦那は鼻で笑つた。

「ばあか」

「なッ……！」

このオヤジ、全くムカツクぜ。

そう思つた次の瞬間だつた。旦那はオイラの両手を釘を刺すように樹に押し当てた。オイラはその勢いで上半身を太い幹に打ち付けた。人間の力じゃない。尋常じやない力で……。

そして耳元で囁いた。

「オマエハオレノソソンザイラヒテイスルノカ……？」

オイラの頬を一筋の汗が、つー、と流れた。

そして数百メートル下の水溜まりに墮ちた音が聴こえた。輪つかを描いて、沈んでくのが見えた気がした。

唇が冷たい。プラスチック。そんな感触。

旦那が、オイラの唇を塞いでいた。

「ん……ふつ」

離せ。

オイラは夢中で旦那の胸を押した。

何故か布の下のその心臓部だけは、柔らかくて温かかった。

やがて旦那は唇を離した。

「俺は傀儡だ。永久の美だ。里を抜けたあの時からな。散りはしない、決して」

逆光で顔や身体に影が出来ていて、まともに見えない。バックに光をまとい艶を帯びた赤い髪が、風に揺れる。一本一本が、ナイロンの毛のように。

「……つ」

オイラは顔をしかめた。

「そんなことしたつてオイラは認めねえよ。一瞬の美。爆発。それがオイラの忍道だからな……うん」

オイラは笑う。サソリの旦那も声を押し殺し笑う。俺達は同時に笑つた。

「行くぞ」

旦那が言つ。

「ああ」

俺達は、何かの偶然で出逢つたんだ。

これからもオイラはこの赤砂のサソリと、人生を歩んで行くだろう

うん。

(後書き)

如何でしたか？貴方様からの評価お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0027f/>

人間と人形

2010年10月28日08時11分発行